

鉄研通信

第11号

六月十九日発行（編集：高1部員）

近畿圏の鉄道会社 高校一年の清風鉄研部員が考える改善点とは？

我々高校一年生の鉄道研究部員は、もともと鉄道に対して深く掘り下げるために、近畿圏の鉄道会社の改善点について意見を出し合い、話し合った。

列車の運行について

列車の運行について、三つ改善点の意見が出た。一つ目は、阪和線の快速についてだ。最近、阪和線では、訪日外国人の増加に伴い、閑空快速と紀州路快速の誤乗車が増えている。そこで、閑空快速と紀州路快速を別々で運行して、閑空快速・紀州路快速・快速（昼の時間帯は区間快速）の三列車を、二〇分サークルでさばくというのはいかがかというものだ。

二つ目は、南海本線における準急に関してだ。朝ラッシュ時における準急の本数が少なく、混雑している。堺以南の急行停車駅のお客さんに準急でゆっくり通勤してもらうことで、混雑が防げるのだが、その肝心な準急の本数が少ないので、急行が混雑してしまっている。なので、是非準急を増やしてほしいと言うことだった。

最後の三つ目は、阪急京都線・快速急行の両数についてである。現在、朝ラッシュの快速急行のうち、三往復は一〇

両編成で運行されているが、それ以外は八両編成で運行されている。よって、八両編成の快速急行はとても混雑している。混雑は列車の遅れにもつながるので、すべての快速急行を一〇両編成で運転するということがあった。

快適性・安全性について

また、列車を利用する上での快適さについての改善点が二つ出た。一つ目は京阪電車の車両についてだ。現在、京阪電車にて走っている最も古い車両は、製造から五五年である（二〇〇系）。新車を導入せずに、古い車両を長く使う。これは京阪に限ったことではなく、関西私鉄で言えば、近鉄などがこれに当てはまると思う。古い電車は、新しい電車より揺れが激しかったり、音がうるさかったりするので、新しい電車の方がいいと感じる人は多いと思う。なので是非新車を導入してほしい。

二つ目は、ホームドアについてだ。人身事故に対する最も効果的な対策の一つにホームドアを設置するという物がある。環状線では京橋駅・大阪駅で稼働し始めて、最近では鶴橋駅の工事に着手したようである。しかし、ホームドアを

設置するには、当然お金が必要である。全駅に設置しようとなると、膨大な量のお金が必要となる。しかし、尊い命が失われないようになるならば、その膨大な量のお金も無駄ではないと思うので是非ホームドアの設置に力を入れてほしい。

以上が、高校一年生の研究内容「近畿圏の鉄道会社の課題点」の内容である。以下に写真を掲載しておくので、よろしければご覧ください。



京阪 2200系(2225F)@守口市駅
現在7編成49両が運行中▲



223系100番台@日根野駅▲
最近では四カ国語放送も増えている